2023 年度

高齢者福祉実践・研究大会

発表者一覧

«期日»

令和６年２月１３日（火）

１０時～１７時４５分

«会場»

あべのハルカス 23 階 キャンパスフロア

«主催»

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
老人施設部会
（TEL）06-6762-9001

スケジュール等の詳細は
「さくら草ネット」から
ご覧いただけます ⇒⇒

https://www.a-kaigo.gr.jp/

発　表　者　No.1

会　　場	分科会（A）	発表時間	10 時 00 分～10 時 20 分
法　人　名	社会福祉法人 聖徳園	施　設　名	ひらかた聖徳園
カテゴリー	①実践発表	タイトル	いつまでも美味しく食事を！
発表概要	介護現場では口腔ケアを拒否される、口が開きにくい、うがいができないなど、日々の口腔ケアに苦慮している状況がみられます。口腔ケア用品の見直し、オリジナルの研修動画の作成、研修機会を増やす、訪問歯科との連携などを通して口腔ケアの重要性を理解し職員のスキルアップと入居者の口腔衛生の改善に取り組みました。		
発　表　者	■岡澤　菜奈美（介護職）、濱砂　亜弥（介護職） 		

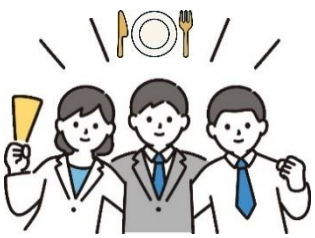
発　表　者　No.2

会　　場	分科会（A）	発表時間	10 時 20 分～10 時 40 分
法　人　名	社会福祉法人 そうび会	施　設　名	特別養護老人ホームつるぎ荘
カテゴリー	②研究発表	タイトル	特別養護老人ホームでの「食形態ＵＰ」の試み ～誤嚥性肺炎発症との関連を調査して～
発表概要	食事は生きる源！という施設の方針のもと、入所者様の食事支援に取り組んでいる。そんな中、食形態 UP をすると誤嚥しやすくなるのでは、と心配な声があった。それをきっかけに、食形態 UP と誤嚥性肺炎の関連を調査し、肺炎発症がゼロであったことを確認した。 これにより、食形態 UP が適切であったこと、そして多職種連携により安全性が確保できていたことを考察した。具体的な取り組みを紹介しながら報告する。		
発　表　者	■山岡　亜紀（機能訓練指導員（言語聴覚士）） 		

発 表 者 No.3

会　　場	分科会（A）	発表時間	10 時 40 分～11 時 00 分
法 人 名	社会福祉法人 みささぎ会	施 設 名	特別養護老人ホーム大仙もずの音
カテゴリー	①実践発表	タイトル	かたちのある食事 ～ムース食の導入について～
発表概要	ミキサー食を提供していた際、量が多い、献立内容が分かりづらい、肺炎での入院が多いといった課題がありました。ご利用者にとって良い食事形態での提供を行いたいと考えムース食を導入することにしました。ご利用者に提供するまでに、厨房で調理方法を検討、施設内での試食会などを行い、改善を繰り返しながら取り組んできました。ムース食を導入できたことで、ご利用者の摂取状況や疾病予防の効果がみられました。		
発 表 者	■中川　真緒（管理栄養士） 		

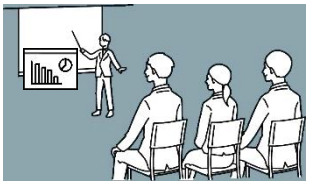
発 表 者 No.4

会　　場	分科会（A）	発表時間	11 時 00 分～11 時 20 分
法 人 名	社会福祉法人 悠人会	施 設 名	ベルライブ
カテゴリー	①実践発表	タイトル	多職種で取り組む利用者の状態に応じた食事支援
発表概要	日々の問題点を抽出し、利用者に合わせた食事介助や環境調整を行うことで、嚥下障害のある利用者が安全に食事を摂取できるようになり、誤嚥性肺炎のリスクが軽減する事に繋がる。 また、日々のミールラウンドにおいて介護福祉士が参加し、食事についての情報を共有する事で個々の介助の方法が明確になり不安軽減や形態の変更の情報のもれがなくなると考え研究を行った事を報告します。		
発 表 者	■宮崎　秀幸（介護福祉士） 		

発 表 者 No.5

会　　場	分科会（A）	発表時間	11 時 20 分～11 時 40 分
法 人 名	社会福祉法人 邦寿会	施 設 名	どうみょうじ高殿苑
カテゴリー	①実践発表	タイトル	『歯科衛生士～介護施設で求められる人材となる～』
発表概要	高齢期における口腔ケアの重要性が明らかになり、介護業界においても口腔関連の加算が増え歯科連携が勧められています。雇用時「歯科衛生士は介護施設で何をするのか」という他者からの疑問を受け、自己目標を「介護施設で求められる人材となる」と設定し、アンケートから見出した課題を解決するために 15 年間行ってきた業務、取り組みの紹介と、現在の施設職員や地域事業所の歯科衛生士に対する評価について発表したいと思います。		
発 表 者	■大谷　まさ美（歯科衛生士／介護福祉士）		

発 表 者 No.6

会　　場	分科会（A）	発表時間	11 時 40 分～12 時 00 分
法 人 名	社会福祉法人 上神谷福祉会	施 設 名	特別養護老人ホーム　槇塚荘
カテゴリー	①実践発表	タイトル	ＩＡＤを知る！治す！予防する！
発表概要	高齢者にとって、実はとても身近な皮膚疾患である IAD。私たちの施設では褥瘡との区別が曖昧なまま、介護職は看護師の指示・指導のもと対応してきました。大王製紙株式会社の武本さんによる『おむつマイスター』を受講する中で、IAD について初めて詳しく学び、介護職と看護師が連携してケアしていく内容だと考え、おむつマイスター達を中心に行った取り組みを発表します。		
発 表 者	■笹岡　紗吏（介護職）、 ■武本　あゆみ（大王製紙株式会社　アテントチーフアドバイザー） 		

発　表　者　No.7

会　　場	分科会（A）	発 表 時 間	12 時 00 分～12 時 15 分
法　人　名	社会福祉法人 川福会	学部･学科名	特別養護老人ホーム　みのわの里
カテゴリー	①実践発表	タ イ ト ル	ＧＩＦＴ「私からあなた達へ」
発表概要	看取りケアを初めて 6 年､看取る事が精一杯だった職員がただ見送るだけではなく､もっとご利用者にできる事ご利用者の望みは何なのかと考えるようになりました。ご利用者は何年も家族と離れ施設を利用されています､長い人生を振り返り楽しい青春時代・家族との楽しかった思い出を自分史に残しご家族へお渡ししています。ご家族様が「何もできなかった」と後悔なさらないように今後の人生が豊かになりますようにと思いを込め作成しています。		
発　表　者	■長沖　円（介護長)、石川　つやこ		

発　表　者　No.8

会　　場	分科会（A）	発 表 時 間	13 時 15 分～13 時 35 分
法　人　名	大阪大谷大学	学部･学科名	人間社会学部　人間社会学科社会福祉コース
カテゴリー	③学生発表	タ イ ト ル	高齢者福祉施設における虐待の防止に関する検討
発表概要	高齢者福祉施設における虐待の防止を研究テーマとして､卒業論文の作成を行った。目的は「施設内虐待」と呼ばれる高齢者福祉施設での虐待の発生要因や背景にあるものは何なのか分析し、虐待に至るまでの過程について検討をしていくことである。そして、施設内虐待への対応と今後の課題について考察に取り組んだ。その具体的な内容を報告させていただく。		
発　表　者	■村上　蓮斗（４回生）		

発　表　者　No.9

会　　場	分科会（A）	**発 表 時 間**	13 時 35 分～13 時 55 分
法　人　名	大阪人間科学大学	**学部･学科名**	人間科学部　社会福祉学科
カテゴリー	③学生発表	**タ イ ト ル**	せっつ桜苑でのソーシャルワーク実習を通して学んだこと
発表概要	３回生の１１月にソーシャルワーク実習（後期）として、特別養護用心ホームでの個別支援計画書を初めて作成した。これまでの実習よりも遥かに技能と知識を学ぶことができた。 実習前は不安でたまらなかったが、実践を通じて、利用者理解や自己覚知をすることができた。その具体的な内容を報告させていただきます。		
発　表　者	■棚田　陽向（３回生） 		

発　表　者　No.10

会　　場	分科会（A）	**発 表 時 間**	13 時 55 分～14 時 15 分
法　人　名	四天王寺大学	**学部･学科名**	人文社会学部　人間福祉学科
カテゴリー	③学生発表	**タ イ ト ル**	ソーシャルワークの第一線を垣間見て～サンローズオオサカでの 180 時間実習～
発表概要	配属先としては「特別養護老人ホーム　サンローズオオサカ」となっていました。だけど、実習の現場は大阪市東成区全体でした。 そこで実習指導者である横田様とともに地域支援の実践を体験してきました。今回は、実習での学びや気づきについてお話します。		
発　表　者	■岡田　勝香（３回生） 		

発 表 者 No.11

会　　場	分科会（A）	発 表 時 間	14 時 15 分～14 時 35 分
法　人　名	大阪健康福祉短期大学	学部･学科名	介護福祉学科
カテゴリー	③学生発表	タ イ ト ル	介護福祉士養成校の 2 年間で学んだ介護の専門性の視点
発表概要	2 年間の学生生活の中で、座学や実習を通して介護のさまざまな視点を学びました。今回は、生活支援技術、自立支援、多職種連携、ユニットケアの各視座について私たちが学びとして得たもの、考え、介護の専門職となるうえでの決意を報告いたします。		
発　表　者	■2 年：大橋、廣見、米満（他 4 名）		

発 表 者 No.12

会　　場	分科会（A）	発 表 時 間	14 時 35 分～14 時 55 分
法　人　名	社会福祉法人四恩学園 桃山学院大学	施　設　名	ふれ愛の館しおん地域密着型特別養護老人ホーム
カテゴリー	①実践発表 ③学生発表	タ イ ト ル	地域の世代間の結び目となるような場の提供～地域共生の実現にむけて～
発表概要	(1)コロナ禍の中、外部との接触が制限されている高齢者の現状を知り、本人から聴き取りをし、実際に思い出の場所へ模擬外出をおこない、その様子を VR 上映して共有している【FIOREI シェア旅】 (2)地域の方が集い、学生のアイデアが盛りこまれ、世代間交流のできる場づくり【FIOREI ごちゃまぜ食堂】を行い、社会福祉法人の複合施設として、地域の結び目として大学生と協働した取り組み内容を発表する。		
発　表　者	■佐藤　舜（桃山学院大学　学生ボランティア）、森口　洋一（生活相談員(課長)）		

発 表 者 No.13

会　　場	分科会（A）	発表時間	14 時 55 分～15 時 10 分
法 人 名	社会福祉法人 聖徳会	施 設 名	まつばら在宅介護支援センター
カテゴリー	①実践発表	タイトル	地域で暮らす高齢者と大学生の交流をコーディネート－社会福祉法人が地域のプラットホームに！
発表概要	毎年、阪南大学とコラボして、地域の高齢者と大学生の交流の機会をコーディネートしています。地域の社会資源と住民をつなぐ、地域のプラットホーム的な役割も、社会福祉法人に求められる姿の一つではないでしょうか？ 今回は、大学生が地域の高齢者に向けたリズム体操の企画を取材し、その様子を動画にまとめてみました。福祉や高齢者のことを知らない学生たちが、企画を通じて高齢者と心を交わす様をお届けしたいと思います。		
発 表 者	■杉原　圭祐（在宅サービス事業統括所長） 		

発 表 者 No.14

会　　場	分科会（A）	発表時間	15 時 30 分～15 時 50 分
法 人 名	社会福祉法人 大阪自彊館	施 設 名	在宅サービス　ベラミ
カテゴリー	①実践発表	タイトル	地域と福祉施設の共同実践 「フォトプロジェクト 2023」 ～街にまつわる記憶の共有～
発表概要	特別養護老人ホーム・障害者支援施設・在宅サービスの３つの事業から成る複合福祉施設と、地域住民および関係機関と共同で企画した写真展『昭和百周年展』の実践報告を行う。事業所間で連携するための工夫や、施設のボランティア団体、利用者、地域住民など、多くの方々の協力を得て、実現することができた取り組みを発表する。		
発 表 者	■髙橋　加容（生活相談員） 		

発 表 者 No.15

会　　場	分科会（A）	発表時間	15 時 50 分～16 時 10 分
法 人 名	社会福祉法人 邦寿会	施 設 名	どうみょうじ高殿苑
カテゴリー	①実践発表	タイトル	ええやん、道明寺 ～住民の主体形成に向けたこれからの挑戦～
発表概要	どうみょうじ高殿苑の開設後から、法人理念である「笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かちあう」を基に、地域社会への貢献に取り組んできた。これまで地域住民と培ってきたものを大切に、これからも地域住民と共に、在宅介護に困っている本人・家族を地域で支えられるような「地域力」を向上させていきたい。そのために地域住民と施設職員の本音の声を聴き、地域と施設のパワーを掛け合わせる仕組みを考えていく。		
発 表 者	■前川　勇歩（社会福祉士／デイサービス介護職） 		

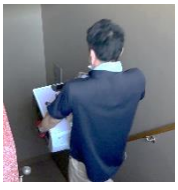
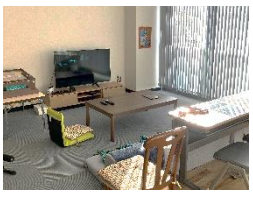
発 表 者 No.16

会　　場	分科会（A）	発表時間	16 時 10 分～16 時 30 分
法 人 名	社会福祉法人 みささぎ会	施 設 名	藤井寺特別養護老人ホーム
カテゴリー	①実践発表	タイトル	『地域の居場所作り』 こども食堂　坂の上のキッチン
発表概要	コロナ禍の３年間、地域とのつながりは希薄化、活動に制約が生じた。会議の場で、五類後新しい取り組みを検討、こども食堂をオープンする。活動内容（食事の提供を通して、寛げる場所としての居場所つくり・わくわく体験【体験格差の解消】・個別相談【総合生活相談】）だけでなく準備期間やオープン後、特に地域や関連機関とのつながりの大切さ・連携について伝えたい。		
発 表 者	■渕本　直志（ソーシャルリレーション推進室　室長） 		

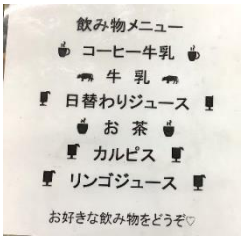
発 表 者 No.17

会　　場	分科会（A）	発表時間	16 時 30 分～16 時 50 分
法 人 名	社会福祉法人 もくせい会	施 設 名	きんもくせいデイサービスセンター
カテゴリー	①実践発表	タイトル	かたの七夕プロジェクト ～世代を越えて 心がつながる願いごと～
発表概要	コロナ禍が 3 年続き地域との関わりが薄くなり、通所介護でも事業所完結型のレクリエーションや制作が多く、お世話型の介護保険制度ではなく利用者様も役割りや生きがいを感じてもらえる事を考えました。更生施設が七夕の短冊原案作成し、高齢者施設が原案をもとに制作を行いました。作成後は交野市内の幼稚園や保育園に配布し願い事を書き、市内の商業施設等に展示し市民の方にも見て頂きました。心と心が繋がる企画になりました。		
発 表 者	■村山　慶（統括課長） 		

発 表 者 No.18

会　　場	分科会（A）	発表時間	16 時 50 分～17 時 10 分
法 人 名	社会福祉法人 八尾隣保館	施 設 名	地域支援事業なないろ
カテゴリー	①実践発表	タイトル	地域支援事業の発展
発表概要	2021 年 4 月より「地域支援事業なないろ」がスタートしました。以前より地域公益事業を積極的に実施してきましたが、特に居住支援事業、要支援児童等見守り強化事業について発表したいと思います。		
発 表 者	■田村　将一（地域支援事業　相談員）  		

発 表 者 No.19

会　　場	分科会（A）	発表時間	17 時 10 分～17 時 30 分
法 人 名	社会福祉法人 東光学園	施 設 名	特別養護老人ホームふれ愛の家
カテゴリー	①実践発表	タイトル	「他部署間交流を通じて（～利用者のできる力を大切に～）」
発表概要	『業務が優先になっているのではないか』ということが課題に上がり、改めて自分たちの行っているケアが本当に利用者にとって良いのか、優先順位は間違えていないかを立ち止まって見直すことにし、入所職員がデイサービスへ業務体験にいく他部署間交流を実施しました。他部署間交流の目的として「利用者本位のケアを考えよう」ということを目指し、「利用者の伝える力、できる力を奪わない」をモットーに取り組みました。		
発 表 者	■高取　幸一郎（生活相談員） ■今石　卓也（介護職員）		

発 表 者 No.20

会　　場	分科会（B）	発表時間	10 時 00 分～10 時 20 分
法 人 名	社会福祉法人 四天王寺福祉事業団	施 設 名	四天王寺悲田院養護老人ホーム
カテゴリー	①実践発表	タイトル	水分摂取量が増加すれば認知症高齢者の周辺症状は緩和するのでは！？
発表概要	養護老人ホームでも認知症高齢者の増加の歯止めが効かない現状があり、人員面でも対応に苦慮する場面が多く見受けられている。そこで「水分摂取量が増加すれば周辺症状が緩和できるのでは！？」という仮説を立て、ハード面ならず普段の関り方も見直し、入居者個々のアプローチに取り組む。結果として周辺症状の緩和、最終的には普段の日常生活での愉しみを見出せるよう取り組んでいく。		
発 表 者	■竹内　一真（支援員） ■藤岡　祥太郎（支援員）		

発 表 者 No.21

会　　場	分科会（B）	発表時間	10 時 20 分～10 時 40 分
法 人 名	社会福祉法人 石井記念愛染園	施 設 名	特別養護老人ホームあいぜん
カテゴリー	①実践発表	タイトル	認知症ケアにおけるご利用者とのコミュニケーション『基本の基！』
発表概要	普段、ご利用者と何気なく接する職員の声掛けや態度を「バリデーション」「ユマニチュード」といった認知症ケアにおける基本的なコミュニケーション技法になぞらえて見直してみると、どのような対応がご利用者にとって納得したケアを受け入れて頂けるものなのか？安心につながるのか？ 改めて、ケアチーム全員がご利用者に対して統一したケアを行うことで不安感の軽減に繋がった事例を紹介する。		
発 表 者	■久保 直樹（介護士） 		

発 表 者 No.22

会　　場	分科会（B）	発表時間	10 時 40 分～11 時 00 分
法 人 名	社会福祉法人 成光苑	施 設 名	高槻けやきの郷
カテゴリー	②研究発表	タイトル	認知症高齢者が主体的に運営する喫茶店における認知症状へのアプローチ
発表概要	本研究は認知症対応型通所介護を利用する高齢者に喫茶店を主体的に運営してもらうことで、意欲・QOL の向上や認知症状の軽減につながるのではないかという仮説を基に取り組み、地域における認知症高齢者の役割の確立や社会参加を目的とした研究報告である。		
発 表 者	■阪口　卓実（生活相談員） 		

発 表 者 No.23

会　　場	分科会（B）	発表時間	11 時 00 分～11 時 20 分
法 人 名	社会福祉法人 そうび会	施 設 名	特別養護老人ホームつるぎ荘
カテゴリー	①実践発表	タイトル	その人の想いを汲み取った支援、当施設における認知症ケアの紹介
発表概要	A さんは、転倒リスクがあるが、立ち上がることが多く、入浴時は拒否があり、職員に大声や時には叩く等の場面があった。B さんは、看取りケアだが、座位が困難で、食べたいがむせてしまう等が見受けられた。その人らしく生活できるように、嗜好や生活歴を伺い、心の活力になるケアを考えた。私たちは、行動と合わせ、その奥にある想いに着目しチームで対応した。 これらの事例を通し、私達が大切にしている認知症ケアを紹介します。		
発 表 者	■吉田　将人（介護福祉士） 		

発 表 者 No.24

会　　場	分科会（B）	発表時間	11 時 20 分～11 時 40 分
法 人 名	社会福祉法人 堺福祉会	施 設 名	ハートピア堺
カテゴリー	①実践発表	タイトル	ご利用者の活躍の場「お仕事デイ」
発表概要	コロナ禍を経て、今までのやり方や習慣にとらわれることなく、自由な発想でケアを一から見直す「ゼロベース委員会」が発足しました。部署を超えたつながり、ご利用者が得意なことで活躍するハートピア堺の新しい当たり前のひとつ「お仕事デイ」について発表します。 		
発 表 者	■村尾　健司（在宅課通所係主任） 		

発 表 者 No.25

会　　場	分科会（B）	発表時間	11 時 40 分～12 時 00 分
法 人 名	社会福祉法人 四天王寺福祉事業団	施 設 名	特別養護老人ホーム四天王寺紅生園
カテゴリー	①実践発表	タイトル	プライドケアレボリューション
発表概要	介護に従事していた経験から長年当たり前に行っていた排せつ介助を振り返り、ご利用者一人ひとりに目を向け尊厳や意向を尊重する新しい視点で排せつ介助を考え取り組みましたので紹介します。		
発 表 者	■吉住　太一（介護長） 		

発 表 者 No.26

会　　場	分科会（B）	発表時間	12 時 00 分～12 時 15 分
法 人 名	社会福祉法人 玉美福祉会	施 設 名	特別養護老人ホーム　向日葵
カテゴリー	①実践発表	タイトル	個別ケアの実践 （一人ひとりの暮らしの継続）
発表概要	特別養護老人ホーム向日葵では、ご入居者の今までの暮らしぶりを知り、ご入居者の思いや意向を知り得た上で個々の生活リズムに合わせてケアを実施し、余暇活動の提供ができるように 24h 生活シートを作成しています。 環境の一部である職員と入居者が共に向日葵で過ごす日々や、ご家族や地域との繋がりを持ち続けられるような取り組みを紹介します。		
発 表 者	■北浦　渚（ユニットリーダー介護職員）、谷本　文子（介護課長） 		

発　表　者　No.27

会　　場	分科会（B）	発表時間	13 時 15 分～13 時 35 分
法　人　名	社会福祉法人 和悦会	施　設　名	加美北特別養護老人ホーム
カテゴリー	①実践発表	タイトル	1 年目から生活相談員ができる仕組み ～和悦会だからできること～
発表概要	当法人では新卒の職員が 1 年目から生活相談員としての業務につける制度と研修体制が整っています。令和 5 年 4 月に新たに生活相談員として配属された 3 名の職員が、この 1 年間で経験したこと、周囲のフォローを受けながら奮闘してきた記録、今後の成長の為にどのようなことに取り組んでいくか等を 1 年目の職員の目線から発表します。		
発　表　者	■小林　明日香（生活相談員） ■殿浦　若菜（生活相談員） ■梶野　菜紀（生活相談員）		

発　表　者　No.28

会　　場	分科会（B）	発表時間	13 時 35 分～13 時 55 分
法　人　名	社会福祉法人 五常会	施　設　名	特別養護老人ホームゆーとりあ
カテゴリー	①実践発表	タイトル	介護職員のミカタ～無資格・未経験からのスタート～
発表概要	無資格、未経験で介護職員になって 3 年目の僕たち。介護職員をしていることに「大変やね」「えらいね」と言われることに違和感を覚え、イメージを変えていくためには、介護職員の専門性や価値を高めることであることに気づき、この 3 年で経験してきたことを伝えます。 今、僕たちは「自分の仕事は介護職員です」と自信を持って言えます。		
発　表　者	■中垣　佑梧（介護職員）、谷野　光弥（介護職員）		

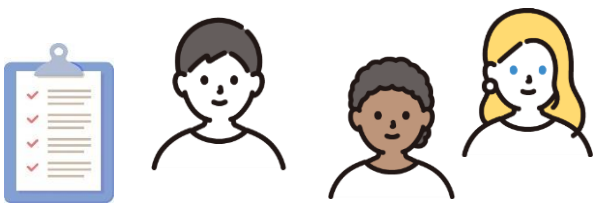
発 表 者 No.29

会　　場	分科会（B）	発表時間	13 時 55 分～14 時 15 分
法 人 名	社会福祉法人 こばと会	施 設 名	特別養護老人ホーム　いのこの里
カテゴリー	①実践発表	タイトル	コロナ後遺症患者として伝えたいこと
発表概要	2021 年に自分自身がコロナウイルスに感染する。その後、療養期間を終えて職場復帰を果たすが、コロナ後遺症により今までの自分とは違う事に不安で悩む。病院受診するも治療方法はなく、症状に苦しみ葛藤しながらも職場・仲間・家族や友人に支えてもらいながら徐々に前を向き、働く事が出来るようになってきた経過を報告。後遺症になったからこそ分かった事・皆さんに知って欲しい事を伝えたい。		
発 表 者	■森田　正伸（ショートステイ　介護職員） 		

発 表 者 No.30

会　　場	分科会（B）	発表時間	14 時 15 分～14 時 35 分
法 人 名	社会福祉法人 美木多園	施 設 名	特別養護老人ホーム　美樹の園
カテゴリー	①実践発表	タイトル	「もっと部下とコミュニケーションを取ろう！」（ 次を担う職員の育成に対する取組 ）
発表概要	近年は新型コロナの影響でオンライン会議が増え、飲み会も無く、部下と直接話す機会が減り、また法人の理念や方針も以前にも増して浸透していないように感じ、職員に対しての「どうして？」が増えたように思います。そこで、職員と直接コミュニケーションを取り、管理者の想いや手法を伝授する機会として、理事長が講師役となって研修会を開催した取組を報告します。		
発 表 者	■西尾　正敏 （理事長） 		

発 表 者 No.31

会　　場	分科会（B）	発表時間	14 時 35 分～14 時 55 分
法 人 名	社会福祉法人 宝生会	施 設 名	ブレス南花田
カテゴリー	①実践発表	タイトル	外国人技能実習生の受け入れ施設の展望と成長、そしてその先へ
発表概要	自施設では外国人技能実習生の受け入れを行っていることから、受け入れたことによる施設での効果・影響・気付きなどについて確認。外国人技能実習生、共に働く日本人職員へそれぞれアンケートを実施。アンケート結果を基に面談を行う。良い点は伸ばせるよう、悪い点は改善へ取り組む。外国人技能実習生が働きやすい職場環境作りを目指し、外国人技能実習生が働くことでの新しい施設のあり方を築き、その先の自施設が誇れるより良いケアの構築へ繋げる。		
発 表 者	■井野　学（生活相談員）、竹信　匡太（生活相談員） 		

発 表 者 No.32

会　　場	分科会（B）	発表時間	14 時 55 分～15 時 10 分
法 人 名	社会福祉法人 玉美福祉会	施 設 名	特別養護老人ホーム八戸ノ里向日葵
カテゴリー	①実践発表	タイトル	外国人職員の育成に関して
発表概要	平成 28 年から EPA の受け入れを始めて、当法人で多くの外国人職員が働くようになった。外国人職員が増えてきたことによる良い点や、ケアにおける課題について。また外国人職員の育成方法の工夫や職員間交流について等を発表させていただきます。		
発 表 者	■五十嵐　拓也（介護職・ユニットリーダー） ■エベエルレイ　バス（介護職・ユニットリーダー） 		

発 表 者 No.33

会　　場	分科会（B）	発表時間	15 時 30 分～15 時 50 分
法 人 名	社会福祉法人 秀幸福祉会	施 設 名	特別養護老人ホーム 庄栄エルダーセンター
カテゴリー	①実践発表	タイトル	特別養護老人ホームにおける新たな学習モデル～介護職と看護職の協働による教育動画の開発～
発表概要	人によって教え方が違う、前の施設と方法が違う、勉強会もなかなか集まれない・・・コロナ禍の困難も乗り越え、オンライン教育の新時代へ！！　看護と介護が協力し、アクションリサーチ法で開発した教育動画。いつでもどこでも手技を学べる当施設専用 YouTube チャンネルで一貫性のある技術をマスター。新人もベテランも自信をもってケアへ。いつでもどこでも皆で成長。		
発 表 者	■有馬　美由紀（看護師長）、山口　真有美（看護師、研究員） 		

発 表 者 No.34

会　　場	分科会（B）	発表時間	15 時 50 分～16 時 10 分
法 人 名	社会福祉法人 成光苑	施 設 名	せっつ 桜苑
カテゴリー	②研究発表	タイトル	気付きシートを開設～みんなの気付く力を向上させたい！～
発表概要	ご利用者の軽微な怪我、事故が減少するのみでなく、残存能力やちょっとした想い等に気付き、寄り添う事が出来る。視野を広げ、ケアワーカーの意識作りや、気付きを高める土台作りを行う。事故に繋がる様な芽を予め摘む事で、必ず○○しなければならないと言った自分達を縛る様な、事故予防対策が基本不要になる事を目指す。様々なヒントを得る力が育ち、ケア向上や業務改善等にも目を向ける事が出来る様になる。		
発 表 者	■相浦　聖直（ケアワーカー（介護職）） 		

発 表 者 No.35

会　　場	分科会（B）	発表時間	16 時 10 分～16 時 30 分
法 人 名	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団	施 設 名	特別養護老人ホーム高槻荘
カテゴリー	①実践発表	タイトル	LIFE データを利活用したケアの展開 ～認知症ケア×役割＝自立支援のアップデート～
発表概要	LIFE データから施設課題やご入居者の生活課題を焦点化しました。DBD13（認知症行動障害尺度）を評価指標にし、“ご入居者が活躍できるケアの実践”をテーマに、ご入居者の役割感のある居場所・場面作り、生活の中で活躍してもらうことができるケアについて取り組んだ内容について発表します。 		
発 表 者	■磯﨑　司（介護職員）		

発 表 者 No.36

会　　場	分科会（B）	発表時間	16 時 30 分～16 時 50 分
法 人 名	社会福祉法人 あゆみ会	施 設 名	アンパス東大阪
カテゴリー	①実践発表	タイトル	『誰もが』使いやすい、見やすい、マニュアルに向けての取り組み
発表概要	生産性向上に向けての取り組みとしてマニュアルの統一化に着目。問題構造を分析すると、業務が人によってやり方が違うなど業務の統一がされていないことが原因で業務のムリ、ムラが発生しており、ケアの質の低下などの影響が出ている。業務を明確化し、マニュアルが統一されることで、業務のムラの問題を解消・軽減することを目標に、ICT を活用して新たなマニュアルの作成に取り組んでいる。		
発 表 者	■中塚　直樹（社会福祉士） 		

発 表 者 No.37

会　　場	分科会（B）	発表時間	16 時 50 分～17 時 10 分
法 人 名	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団	施 設 名	特別養護老人ホーム白島荘
カテゴリー	①実践発表	タイトル	眠りスキャンで睡眠を科学！私らしく暮らす 24H シートへブラッシュアップ！
発表概要	令和 2 年度に先行導入し、効果を検証した「眠りスキャン」を令和 4 年度末全台導入しました。「眠りの状態がわかる」「夜勤職員の負担の軽減」だけではなく、「眠りスキャン」のデータを基に 24 時間シートを見直し、より「私らしく暮らす」を叶えられる個別ケアを目指して取り組みました。		
発 表 者	■能海　久美（総括主任介護職員） ■石田　美輝（生活相談員）		

発 表 者 No.38

会　　場	分科会（B）	発表時間	17 時 10 分～17 時 30 分
法 人 名	社会福祉法人 悠人会	施 設 名	特別養護老人ホーム　ベルファミリア
カテゴリー	②研究発表	タイトル	介護現場での介護機器の活用
発表概要	ＩＣＴ及び業務のＤＸ化促進のため、非接触型生体センサー介護睡眠見守りシステム（センシングウェーブ）を導入。夜間不眠傾向にある入居者の睡眠状態のデータ分析から、具体的な対策実施に至るまでの過程を、実際の介護現場での介護ロボット活用事例として発表させていただく。		
発 表 者	■小西　肖侑（介護職員（ユニットリーダー））		

発 表 者 No.39

会　　場	分科会（B）	発表時間	17 時 30 分～17 時 45 分
法 人 名	社会福祉法人 堺福祉会	施 設 名	ハートピア堺
カテゴリー	①実践発表	タイトル	衣替えから考える「生産性向上」
発表概要	実は衣替えは介護職にとっては精神的負担の大きい仕事です。特にコロナ禍の面会制限がある中では、ご家族とのやり取りは電話が主となり、必要な衣類の形状を伝えることが難しく感じただけでなく、衣類の買い替えの必要性を理解していただくことや施設に足を運んでいただくことが難しいことさえありました。たかが衣替え、されど衣替え、その課題解決に向けた取り組みを発表します。		
発 表 者	■久保　和代（介護主任）、岡橋　俊一（出張販売会　オカハシ）		

NOTE